

# 親子で防災「その時わが子を守れますか」

大阪府大阪市阿倍野区 特定非営利活動法人ミラクルウィッシュ

## はじめに

特定非営利活動法人ミラクルウィッシュ（代表・益田紗希子）は、「ママのやりたいを応援する／しあう」活動を行っています。その中で当団体代表益田のやりたいこととして乳幼児を持つ母親に特化した防災コミュニティの構築と持続を目指し活動しています。知識の習得など単なる学びにとどまらず、ワークショップなどを通じて地域社会での母親同士のつながりを創出しています。そのつながりが「が親子が孤立することなく安心して子育てができ、かつ、いざという時に子どもの命を守ることができる」防災」になると考え、コミュニティ創りに取り組んでいます。

## 活動について

当団体の始まりは、益田の転居により縁もゆかりもない地域（兵庫県三田市）へ引越してきた後に結成した子育てサークルでした。ママたちの「あったらいいな」を現実にする活動を開始し、子育てに役立つ情報の発信や、それに関連するイベントの企画、また地域や企業のコミュニティ作りにも取り組んできました。活動のなかで益田の心にあったのが「母親たちへ向けた防災啓発活動をやってみよう」でした。その想いのきっかけは2011年3月に発生した東日本大震災。発生時間は益田の妊娠発覚直後でした。テレビから流れてくる津波の映像は「もし災害にあったら自分の

子どもの命を守ることができるのか」という恐怖と不安を心に残しました。



防災イベントでつくる防災ポーチ





段ボールでいすづくり

団体活動のなかで防災勉強会や講演会を行うなか、2017年に地域(三田市)の課題を市民のアイデアで解決する「協働事業提案制度」に応募し採択されたことをきっかけに、「さんだ女子防災部」を立ち上げました。非常食作りや備蓄品の活用方法を学ぶ講座、救命講習、そして「防災パーティ」などを地域で子育て支援を行う企業とも協力して開催するなど、誰でも気軽に参加できるイベントの運営を行っています。イベント参加者からは「防災の意識も自然と高まりました。これから何ができるかわかりませんが、何か少しでも始めてみたいです」「今まで他人ごとのように思えた防災



屋外での防災イベント

ですが、いつ何があるかわからないし、いざ我が身に訪れたときに知識があるのとないのでは違うなと感じました」などの声をいただきました。

その後、再び代表が転居した地、大阪市阿倍野区で「あべの親子防災部」を結成。活動拠点が2箇所となり、より多くの母親たちと繋がりが、活動を広げられました。

阿倍野区は核家族が多く、転居してくる世帯の自治会加入率は低いと言われています。地域社会とのつながりが希薄ななかで災害がおこれば、助かるはずの命が助からないかも

しれません。より乳幼児との生活に特化した防災意識、災害時の具体的な方法、備蓄品の確保方法、また何よりも防災啓発活動を通じて子育て中の母親たちのネットワークを育み、災害時に自立的に救援活動ができるコミュニティを形成することが大切だと考えています。

あべの親子防災部は、子育てひろばや公共施設での講座開催に加え「ポリ袋クッキング」の啓発活動に力を入れています。特にコロナ禍の2021年からはオンライン上でのポリ袋クッキング講座を開催し、多いときは50名以上の親子に参加いただきました。また、同時期に実施した「ポリ袋クッキング1ヶ月チャレンジ」では、SNSで毎日ポリ袋クッキングで作った料理を公開しました。1ヶ月がすぎると「100日チャレンジ」に改名し、その後は実に300日まで続けることができました。

さらに「調理方法を公開してもらいたい」という声に応え「ポリ袋クッキングブック」を制作、配布したところ「普段から時短調理として活用している」「子どもと一緒に作っている」という声をいただいています。

2022年からは縁あって堺市で「さかい親子防災部」を立ち上げることができました。これまで紹介した「さんだ女子防災部」「あべの親子防災部」との大きな違いは、代表自身





ポリ袋クッキングで親子丼づくり



ポリ袋クッキング

が中心となり動いていないこと。防災講座へ講師として招いていただいたことをきっかけに、カフェスタッフを中心として自発的に立ち上がり活動を継続しています。まさに「自立的な防災活動」だと嬉しく思っています。

3拠点での活動となり、より活動に広がりをもせたこの年。前年に引き続き三田市で開催した「防災パーティ」は300名の方にご来場いただきました。三田市や三田市消防本部をはじめ地元自治体や企業にご協力いただき、普段体験できない避難所やドローン体験を実施し防災を身近に感じていただけのものとなりました。

また、街をおさんぼしながら危険を探す「防災おさんぼ」を各地で実施。特に三田市では車椅子ユーザーの方と一緒に、さらに多くの視点から危険箇所を検証することができました。各家庭ごとに合った「防災」を意識することの大切さを改めて感じたイベントとなりました。

「防災」と聞くと「何をしたらいいのかわからない」などハードルが高いと捉えてしまう方がまだまだ多いと感じています。「いざという時」のために、日常生活に無理なく防災を取り入れていただけるようこれからも啓発活動を行っていききたいと思います。

(特定非営利活動法人ミラクルウィッシュ)

事務局 重田千紘



防災おさんぼで危険な場所探し



防災イベントでの消火器体験